

4 調査から見る松前町の現状

本計画の策定に当たり、住民及び福祉団体が感じている地域の現状や課題、地域福祉に関する考えを把握し、施策の立案等に活用することを目的に、下記の調査を実施しました。

区分	概要
住民アンケート	町内在住の満18歳以上の住民2,000名を無作為抽出し、地域福祉に関する意見や地域活動への参加状況を調査しました。
団体アンケート・ヒアリング	町内で活動する福祉関係の16団体にアンケート調査を実施し、その中の11団体に個別で対面ヒアリングを行いました。
住民座談会	小学校区ごとに各1回、区長や民生委員・児童委員など各回約30名に御参加いただき、地域課題やその解決の取組について話し合いました。

(1) 住民アンケート

調査概要

調査対象者	松前町在住の満18歳以上の住民(無作為抽出した2,000名に配布)
調査期間	令和6年9月24日～10月24日
調査方法	郵送による配布・回収及びWEBでの回答
回収件数	886件(郵送:722件、WEB:164件)(回収率44.3%)

調査結果の見方

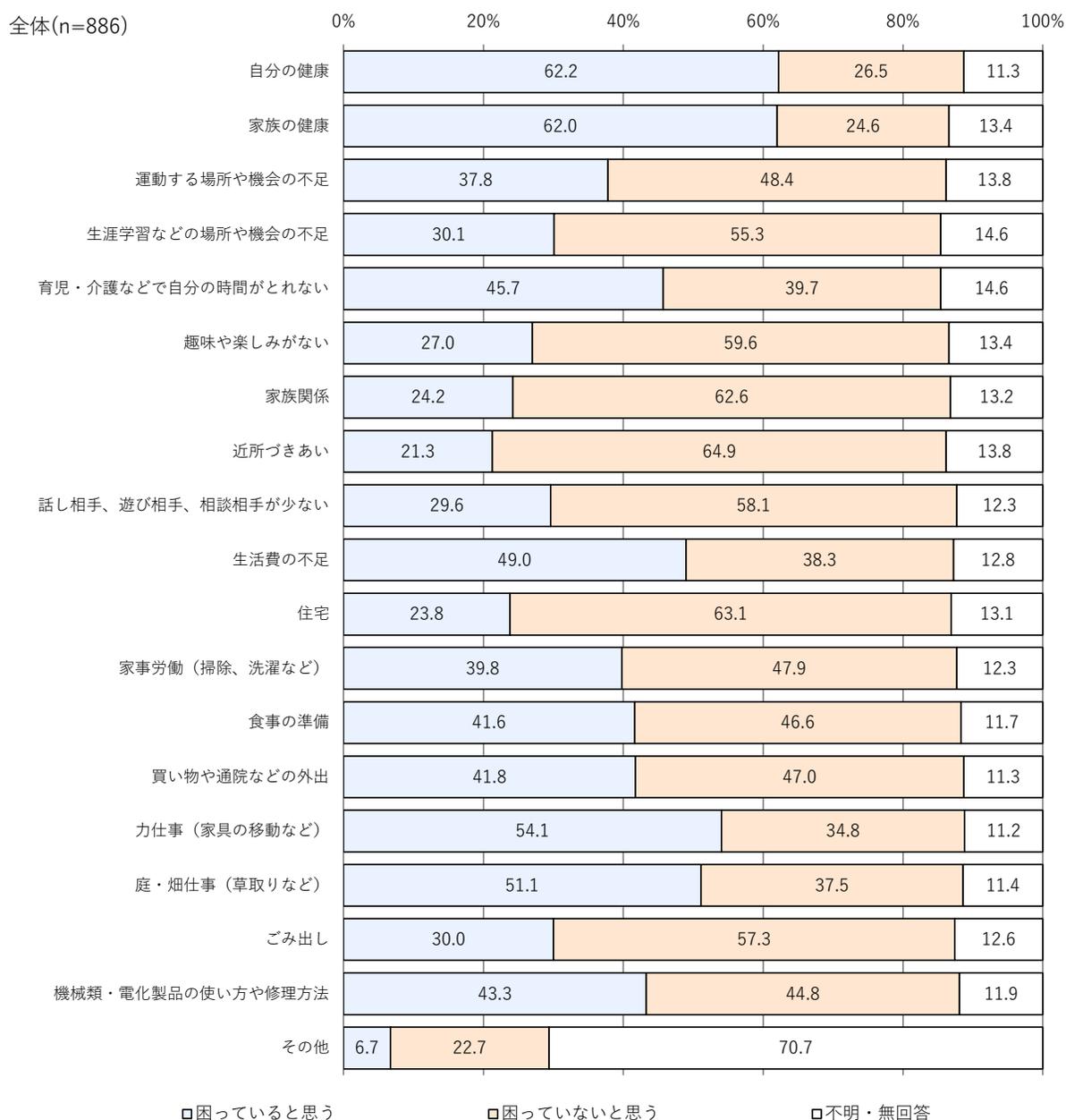
- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対し、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本計画書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n(number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

☀️ 主な調査結果

《将来の暮らしで不安なこと》

毎日の暮らしの中で、現在は困っていないが10年後くらいに困っていると思うことをたずねると、「自分の健康」が62.2%と最も高く、次いで「家族の健康」が62.0%となっています。将来の健康状態に懸念を抱く人の多い状況がうかがえます。また、「力仕事」「庭・畑仕事」への不安も多く見られます。

【毎日の暮らしの中で、10年後くらいに困っていると思うこと】(単数回答)



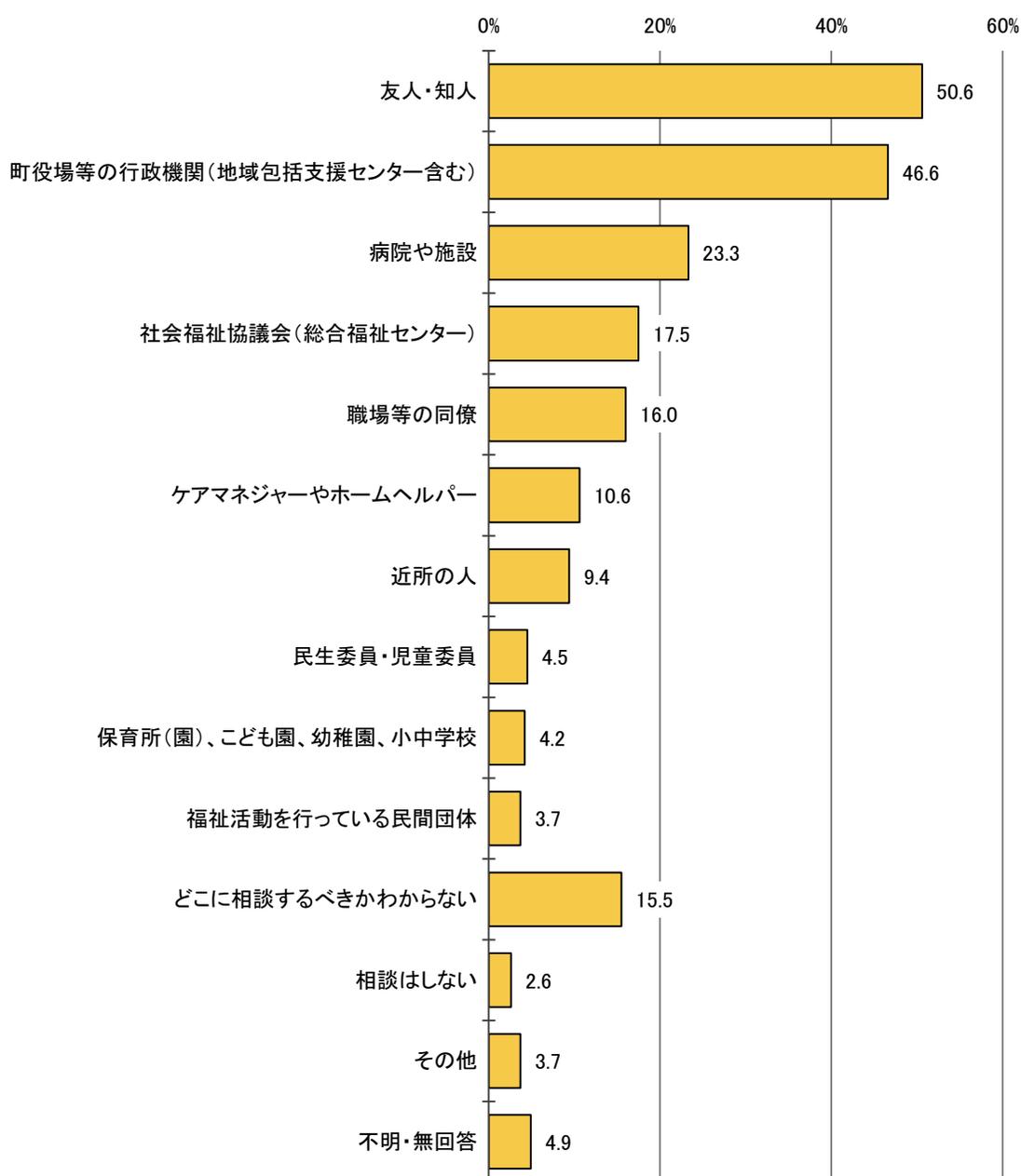
《生活上の困りごとの相談先》

自分や家族が生活上の困りごとを抱えたとき、家族以外でどこ(誰)に相談するかをたずねると、「友人・知人」が50.6%と最も高く、次いで「町役場等の行政機関(地域包括支援センター含む)」が46.6%、「病院や施設」が23.3%となっています。

「どこに相談すべきかわからない」は15.5%で、相談窓口の周知が求められます。

【自分や家族が生活上の困りごとを抱えたときの相談先】(複数回答)

n=886



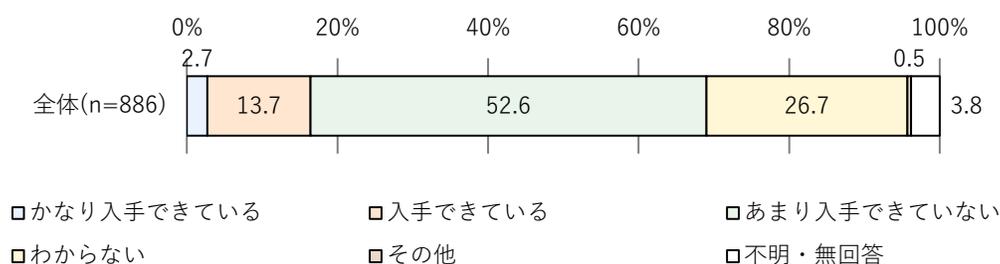
《福祉情報の入手》

行政が提供する福祉のサービスに関する情報をどの程度入手できているかたずねると、「あまり入手できていない」が52.6%と最も高く、次いで「わからない」が26.7%、「入手できている」が13.7%となっています。

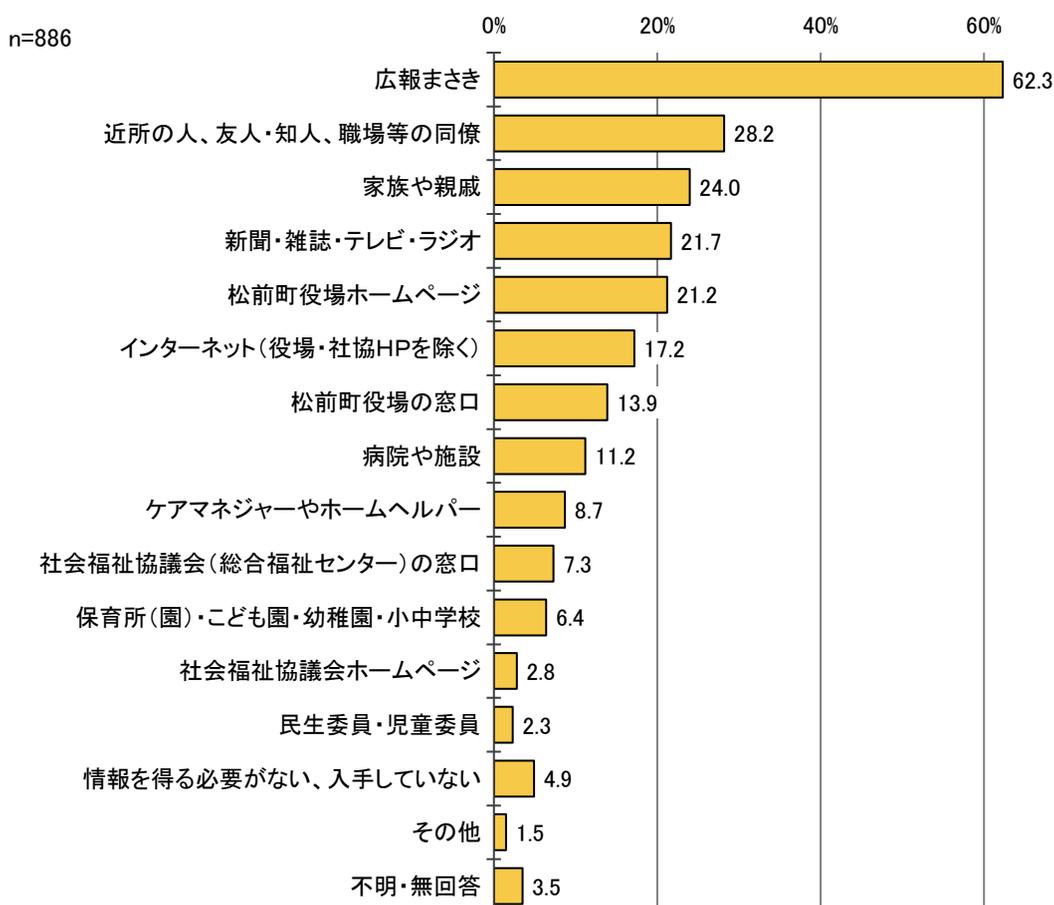
福祉のサービスに関する情報の入手先について見ると、「広報まさき」が62.3%と最も高く、次いで「近所の人、友人・知人、職場等の同僚」が28.2%、「家族や親戚」が24%となっています。

他の項目に倍以上の差をつけて、「広報まさき」が情報源となっています。

【福祉のサービスに関する情報の入手状況】(単数回答)



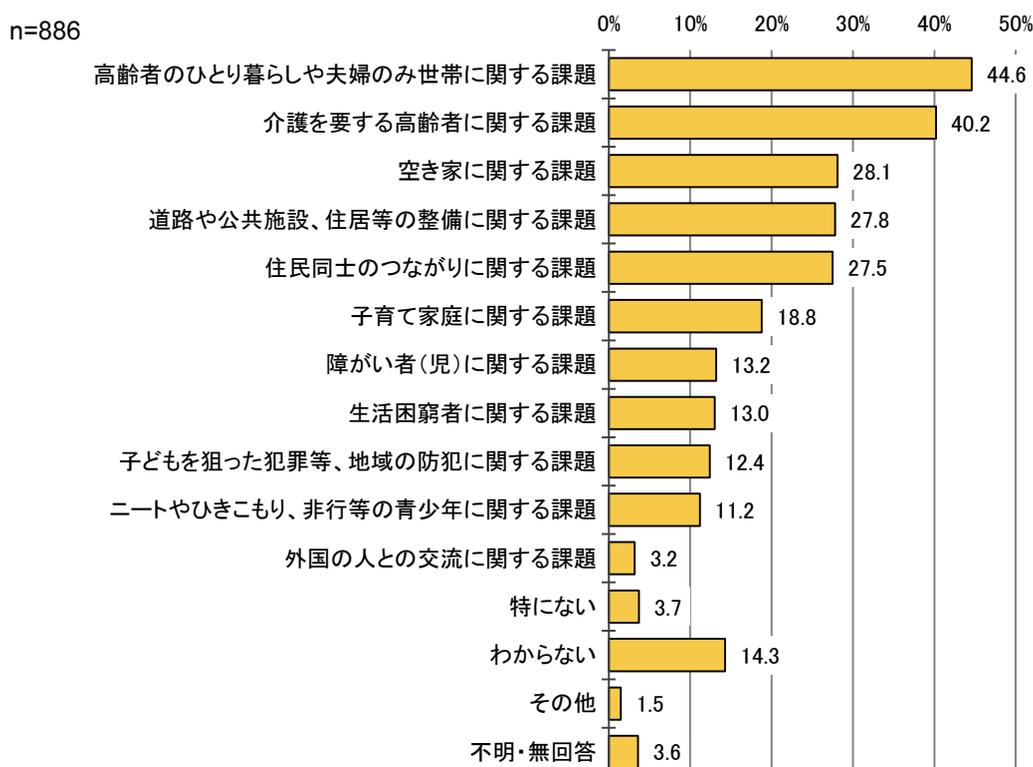
【福祉のサービスに関する情報をどこから入手していますか】(複数回答)



《地域の福祉課題》

地域の福祉課題についてたずねると、いずれの校区でも「高齢者のひとり暮らしや夫婦のみ世帯に関する課題」が最も高くなっています。特に岡田校区では、50.6%と過半数を超えています。また、松前校区では「住民同士のつながりに関する課題」、北伊予校区では「空家に関する課題」がそれぞれほかの校区より高くなっており、校区による傾向の差が見られました。

【あなたの地域には、福祉のどのような課題があると思いますか】(複数回答)



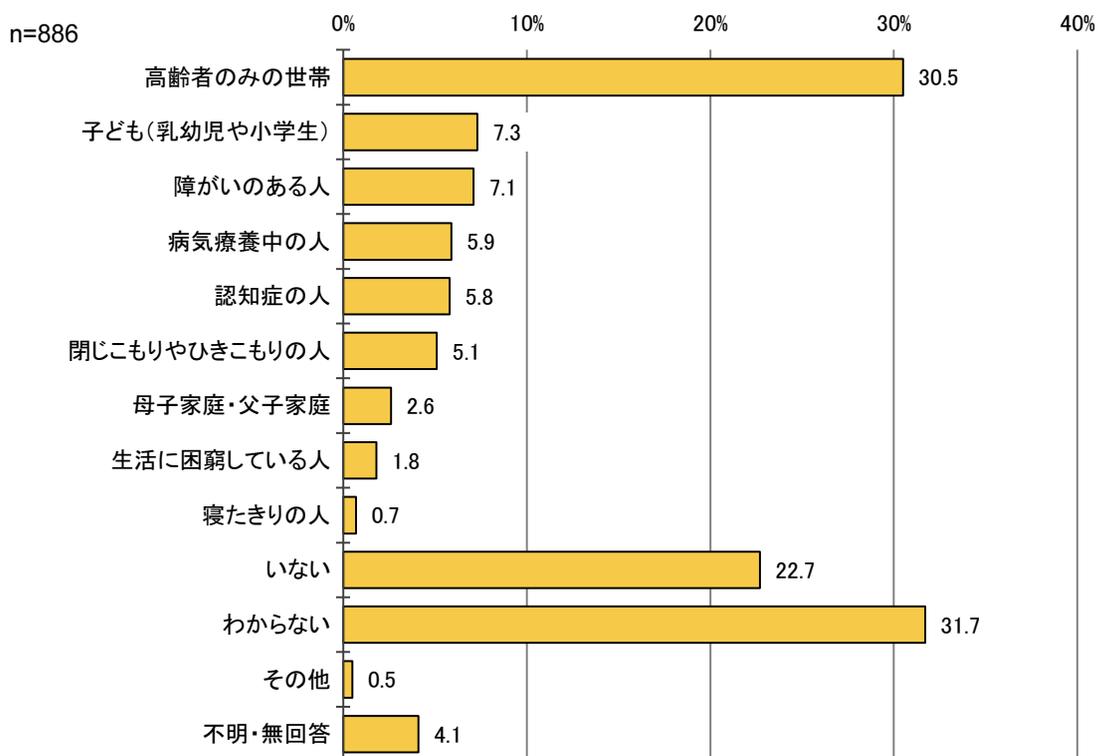
校区別

校区別	%	高齢者のひとり暮らしや夫婦のみ世帯に関する課題	介護を要する高齢者に関する課題	空き家に関する課題	道路や公共施設、住居等の整備に関する課題	住民同士のつながりに関する課題
		全体(n=886)	44.6	40.2	28.1	27.8
松前校区(n=365)	42.7	37.8	28.2	30.7	32.1	
北伊予校区(n=211)	42.2	40.8	30.3	25.6	21.8	
岡田校区(n=271)	50.6	43.5	26.9	26.9	28.4	
校区別	%	子育て家庭に関する課題	障がい者(児)に関する課題	生活困窮者に関する課題	子どもを狙った犯罪等、地域の防犯に関する課題	ニートやひきこもり、非行等の青少年に関する課題
		全体(n=886)	18.8	13.2	13.0	12.4
松前校区(n=365)	20.8	12.6	15.9	13.2	11.5	
北伊予校区(n=211)	16.1	14.7	10.4	9.5	10.0	
岡田校区(n=271)	19.2	13.3	12.2	14.4	11.8	
校区別	%	外国の人との交流に関する課題	特になし	わからない	その他	不明・無回答
		全体(n=886)	3.2	3.7	14.3	1.5
松前校区(n=365)	4.4	2.2	14.2	1.4	2.7	
北伊予校区(n=211)	0.9	6.2	13.3	0.9	4.3	
岡田校区(n=271)	3.7	4.1	14.4	2.2	2.6	

《近所で支援が必要な人》

近所に支援の必要な人がいるかをたずねると、全体の結果では、「わからない」が最多の31.7%となっており、次いで「高齢者のみの世帯」が30.5%となっています。校区別に見ると、松前校区では「わからない」がほかの校区より高くなっています。

【近所に、見守りなど支援が必要な人、気にかかる人はいますか】(複数回答)



校区別

校区別	%	高齢者のみの世帯	子ども(乳幼児や小学生)	障がいのある人	病気療養中の人	認知症の人
		全体(n=886)	30.5	7.3	7.1	5.9
松前校区(n=365)	23.8	6.8	6.0	3.6	2.2	
北伊予校区(n=211)	34.1	10.4	8.5	7.1	7.6	
岡田校区(n=271)	35.4	6.3	7.0	7.7	8.9	

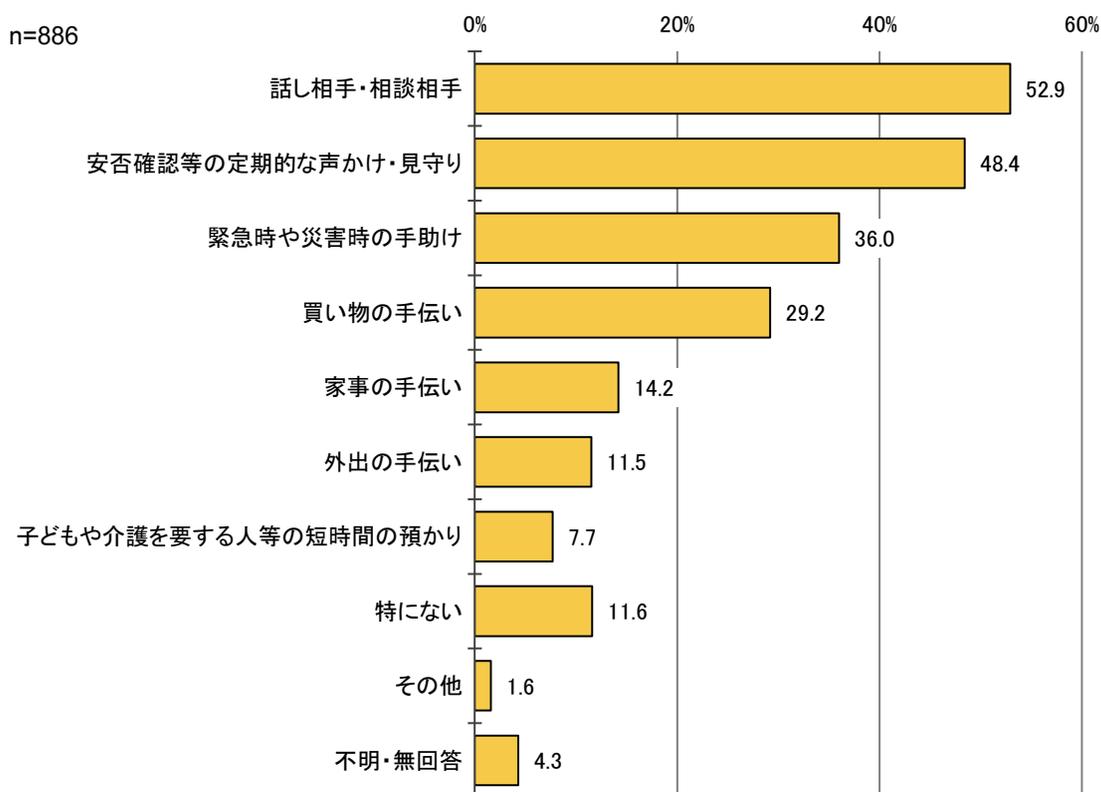
校区別	%	閉じこもりやひきこもりの人	母子家庭・父子家庭	生活に困窮している人	寝たきりの人	いない
		全体(n=886)	5.1	2.6	1.8	0.7
松前校区(n=365)	4.7	1.6	2.5	0.8	24.9	
北伊予校区(n=211)	5.7	2.4	1.4	0.5	20.4	
岡田校区(n=271)	5.2	4.4	1.5	0.7	23.2	

校区別	%	わからない	その他	不明・無回答
		全体(n=886)	31.7	0.5
松前校区(n=365)	37.3	0.5	3.0	
北伊予校区(n=211)	26.1	0.5	4.3	
岡田校区(n=271)	28.4	0.4	4.1	

《自分にできる支援》

身近なところで困っている人がいた場合、どのような支援ができると思うかたずねると、「話し相手・相談相手」が52.9%と最も高く、次いで「安否確認等の定期的な声かけ・見守り」が48.4%、「緊急時や災害時の手助け」が36.0%となっています。

【身近に困っている人がいた場合に、自分にできそうな支援】(複数回答)



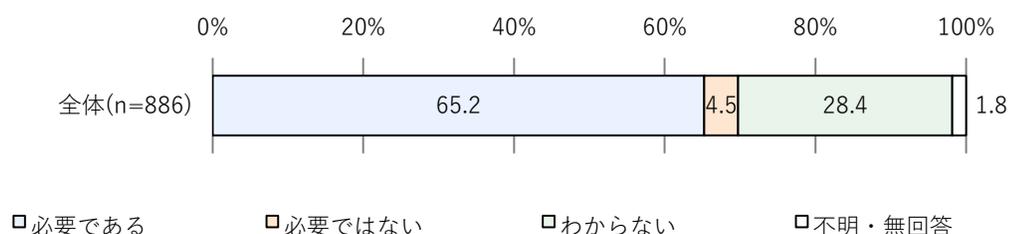
校区別

校区別	%	話し相手・相談相手	安否確認等の定期的な声かけ・見守り	緊急時や災害時の手助け	買い物の手伝い	家事の手伝い
		全体(n=886)	52.9	48.4	36.0	29.2
松前校区(n=365)	52.9	48.2	34.8	33.2	15.1	
北伊予校区(n=211)	57.3	51.2	36.5	29.9	10.9	
岡田校区(n=271)	52.8	49.1	39.5	25.5	17.3	
校区別	%	外出の手伝い	子どもや介護を要する人等の短時間の預かり	特にない	その他	不明・無回答
		全体(n=886)	11.5	7.7	11.6	1.6
松前校区(n=365)	12.6	8.8	12.1	0.8	3.0	
北伊予校区(n=211)	10.0	6.6	7.6	1.9	4.7	
岡田校区(n=271)	11.8	7.7	13.3	1.8	3.7	

《自主的な支え合いや助け合い》

地域での自主的な支え合いや助け合いは必要であると思うかたずねると、「必要である」が65.2%と最も高く、次いで「わからない」が28.4%、「必要ではない」が4.5%となっています。

【地域での自主的な支え合いや助け合いは必要であると思いますか】(単数回答)

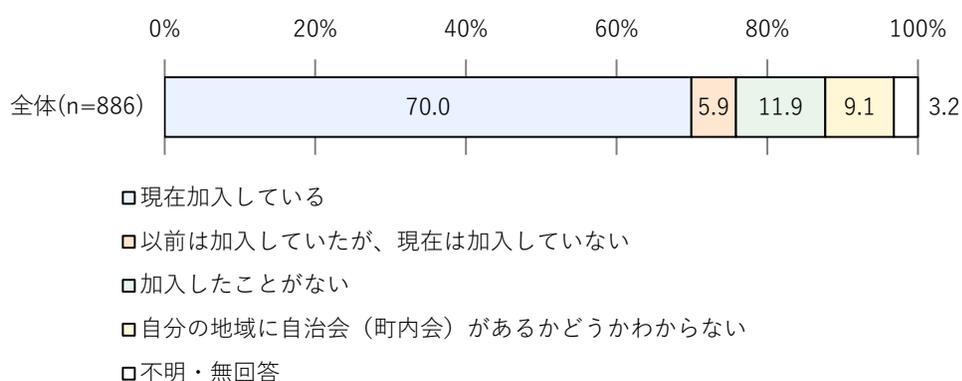


《自治会の加入状況》

自治会(町内会)への加入状況をたずねると、「現在加入している」が70.0%と最も高く、次いで「加入したことがない」が11.9%、「自分の地域に自治会(町内会)があるかどうかわからない」が9.1%となっています。

校区別に見ると、「現在加入している」の割合は岡田校区が79%で最も高く、次いで北伊予校区の75.8%、松前校区の61.6%となっています。

【自治会(町内会)への加入状況】(単数回答)

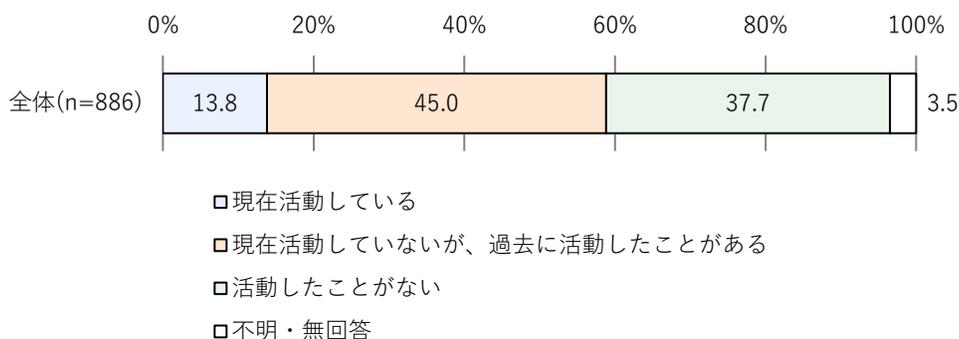


校区別	%	加入状況				
		現在加入している	以前は加入していたが、現在は加入していない	加入したことがない	自分の地域に自治会(町内会)があるかどうかわからない	不明・無回答
全体(n=886)		70.0	5.9	11.9	9.1	3.2
松前校区(n=365)		61.6	4.7	18.4	13.2	2.2
北伊予校区(n=211)		75.8	7.1	5.2	7.1	4.7
岡田校区(n=271)		79.0	6.6	7.0	5.9	1.5

《地域活動の参加状況》

松前町で公民館や子ども会、PTA等の地域活動をしたことがあるかたずねると、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」が45.0%と最も高く、次いで「活動したことがない」が37.7%、「現在活動している」が13.8%となっています。

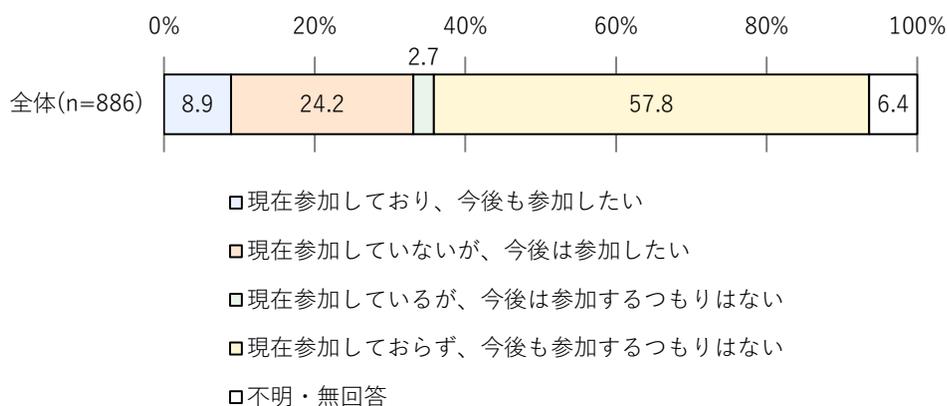
【地域活動への参加状況】(単数回答)



《ボランティア活動の参加状況》

ボランティア活動への個人的な参加状況と今後の参加意向をたずねると、「現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が57.8%と最も高く、次いで「現在参加していないが、今後は参加したい」が24.2%、「現在参加しており、今後は参加したい」が8.9%となっています。

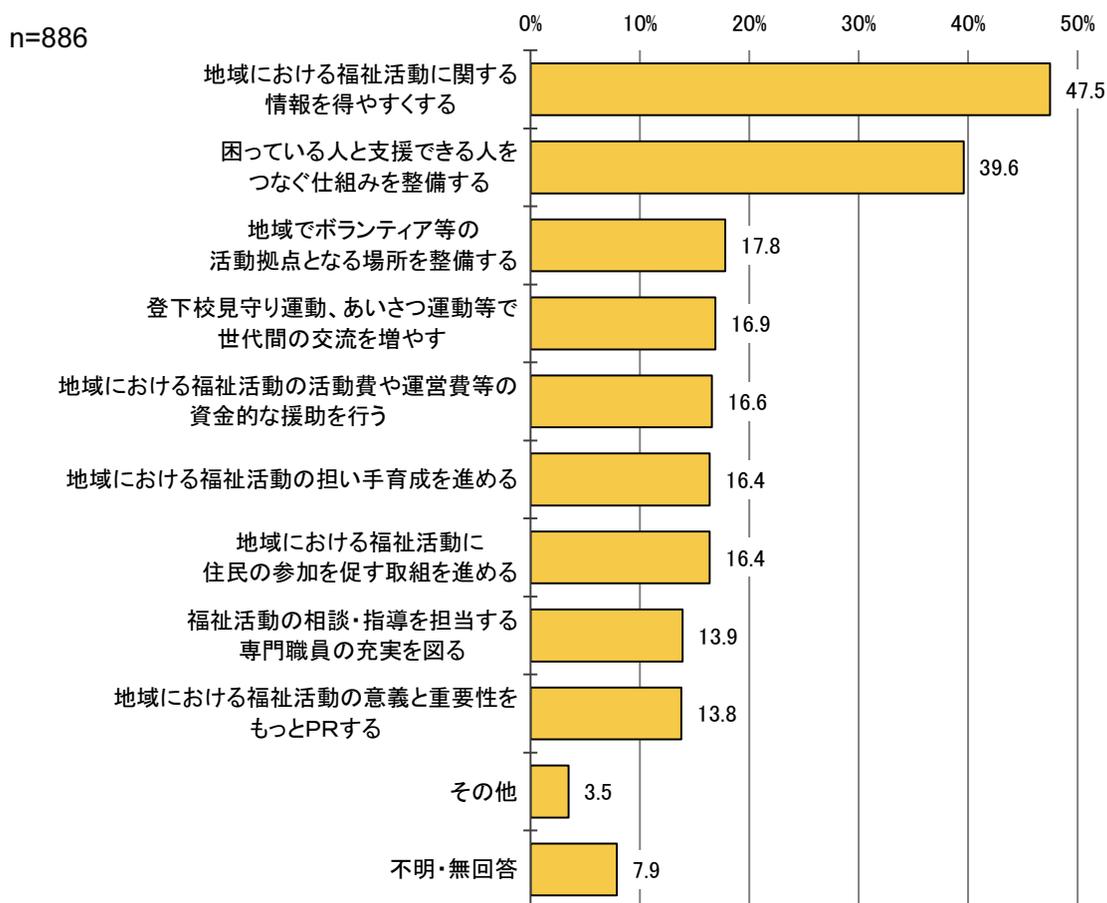
【ボランティア活動への参加状況】(単数回答)



《地域での支え合い・助け合いの活発化に必要なこと》

地域における支え合い・助け合いを活発にするために必要だと思うことをたずねると、「地域における福祉活動に関する情報を得やすくする」が47.5%と最も高く、次いで「困っている人と支援できる人をつなぐ仕組みを整備する」が39.6%でした。

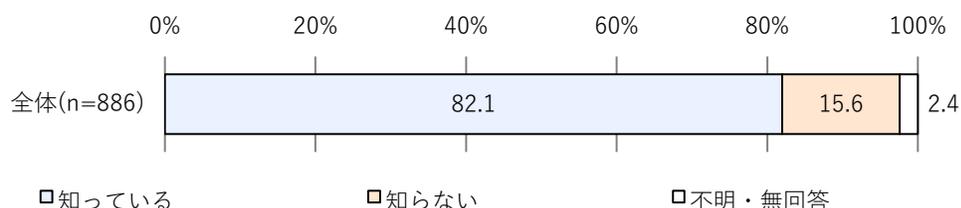
【地域における支え合い・助け合いを活発にするために必要だと思うこと】(複数回答)



《災害時の避難場所》

災害時の地区の避難場所を知っているかたずねると、「知っている」が82.1%で「知らない」が15.6%となっています。

【災害時の地区の避難場所の認知度】(単数回答)



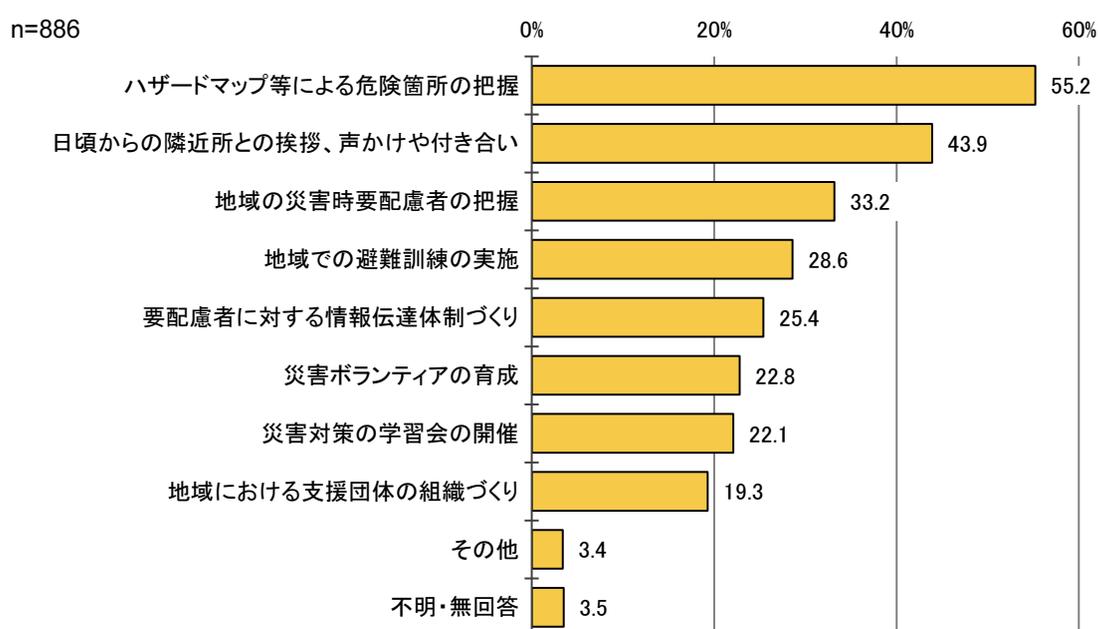
《災害発生時の備え》

災害発生時の備えとして重要なことをたずねると、「ハザードマップ等による危険箇所の把握」が55.2%と最も高く、次いで「日頃からの隣近所との挨拶、声かけや付き合い」が43.9%となっています。近所付き合いの重要性が見直されています。

校区別に見ると、「地域の災害時要配慮者※の把握」について、松前校区はほかの校区より10ポイント以上低くなっていました。

※災害時要配慮者…高齢者や妊婦、乳幼児など、災害時の避難や生活に特別な配慮や支援を必要とする人。

【災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか】(複数回答)



校区別

校区別	%	ハザードマップ等による危険箇所の把握	日頃からの隣近所との挨拶、声かけや付き合い	地域の災害時要配慮者の把握	地域での避難訓練の実施	要配慮者に対する情報伝達体制づくり
		全体(n=886)	55.2	43.9	33.2	28.6
松前校区(n=365)	58.9	42.7	27.4	28.2	24.7	
北伊予校区(n=211)	55.0	44.5	38.4	28.9	26.1	
岡田校区(n=271)	54.2	47.2	37.6	31.0	27.3	

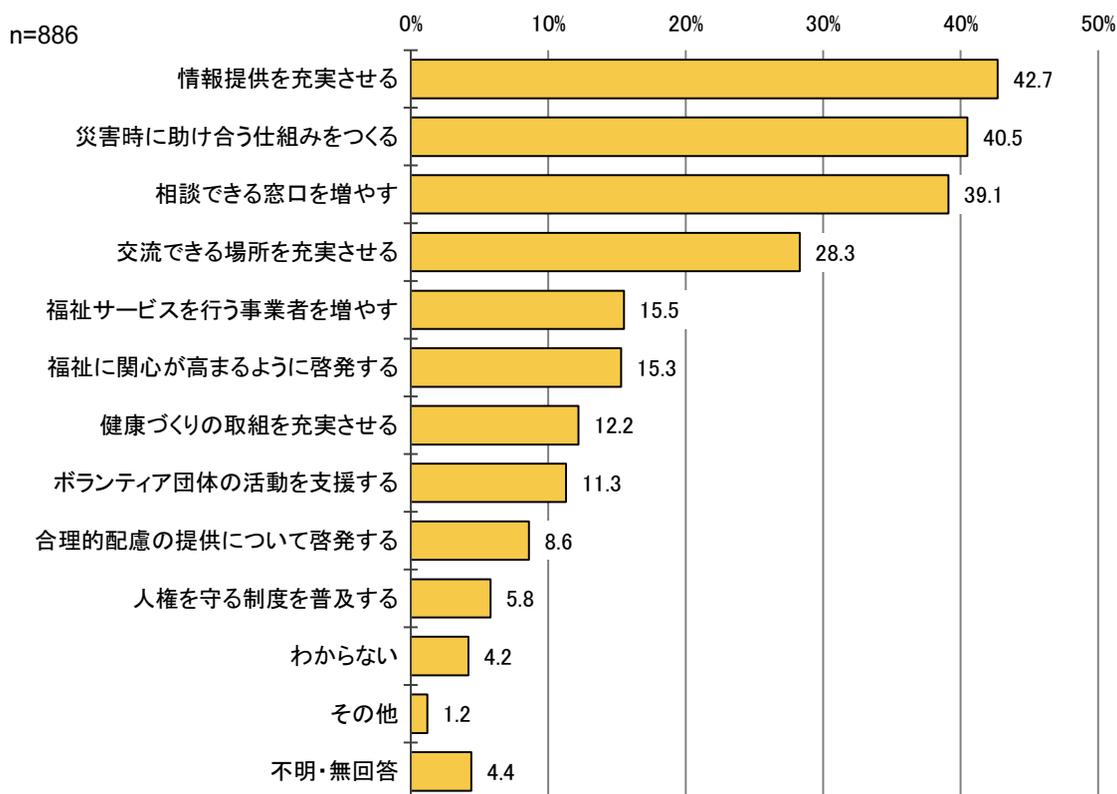
校区別	%	災害ボランティアの育成	災害対策の学習会の開催	地域における支援団体の組織づくり	その他	不明・無回答
		全体(n=886)	22.8	22.1	19.3	3.4
松前校区(n=365)	24.4	23.8	20.0	1.1	2.5	
北伊予校区(n=211)	17.5	19.9	15.6	4.3	2.4	
岡田校区(n=271)	26.9	24.4	22.1	4.8	3.3	

《地域全体で支援するために必要な取組》

困っている人を地域全体で支援するために、町が取り組むべきことをたずねると、「情報提供を充実させる」が42.7%と最も高く、次いで「災害時に助け合う仕組みをつくる」が40.5%、「相談できる窓口を増やす」が39.1%となっています。

校区別に見ると、「交流できる場所を充実させる」について、松前校区34.2%、北伊予校区27.5%、岡田校区22.9%と、校区によって差がありました。

【困っている人を地域全体で支援するために、町が取り組むべきこと】(複数回答)



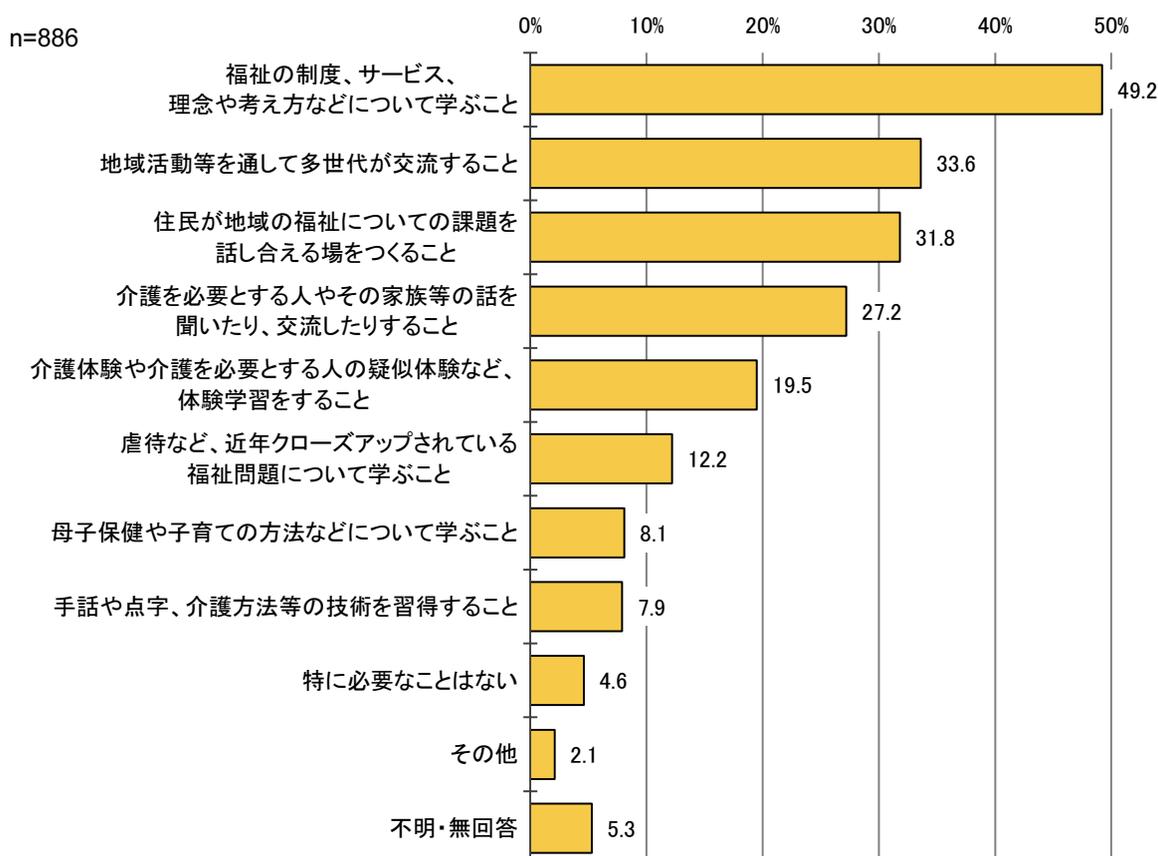
校区別

校区別	%	情報提供を充実させる	災害時に助け合う仕組みをつくる	相談できる窓口を増やす	交流できる場所を充実させる	福祉サービスを行う事業者を増やす	福祉に関心が高まるように啓発する	健康づくりの取組を充実させる
		全体(n=886)	42.7	40.5	39.1	28.3	15.5	15.3
松前校区(n=365)	45.5	38.1	42.5	34.2	16.2	15.3	14.8	
北伊予校区(n=211)	39.8	45.0	42.7	27.5	16.6	16.6	10.0	
岡田校区(n=271)	44.6	44.6	36.2	22.9	14.0	15.9	11.4	
校区別	%	ボランティア団体の活動を支援する	合理的配慮の提供について啓発する	人権を守る制度を普及する	わからない	その他	不明・無回答	
全体(n=886)	11.3	8.6	5.8	4.2	1.2	4.4		
松前校区(n=365)	10.7	7.1	6.0	4.9	0.3	1.6		
北伊予校区(n=211)	7.6	10.0	5.7	1.9	1.9	3.8		
岡田校区(n=271)	15.1	10.7	5.2	4.8	1.1	3.3		

《福祉の理解に必要な機会》

住民が福祉について理解を深めるために必要な機会をたずねると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が49.2%と最も高く、次いで「地域活動等を通して多世代が交流すること」が33.6%、「住民が地域の福祉についての課題を話し合える場をつくること」が31.8%となっています。

【住民が福祉について理解を深めるために、必要だと思う機会】(複数回答)



校区別

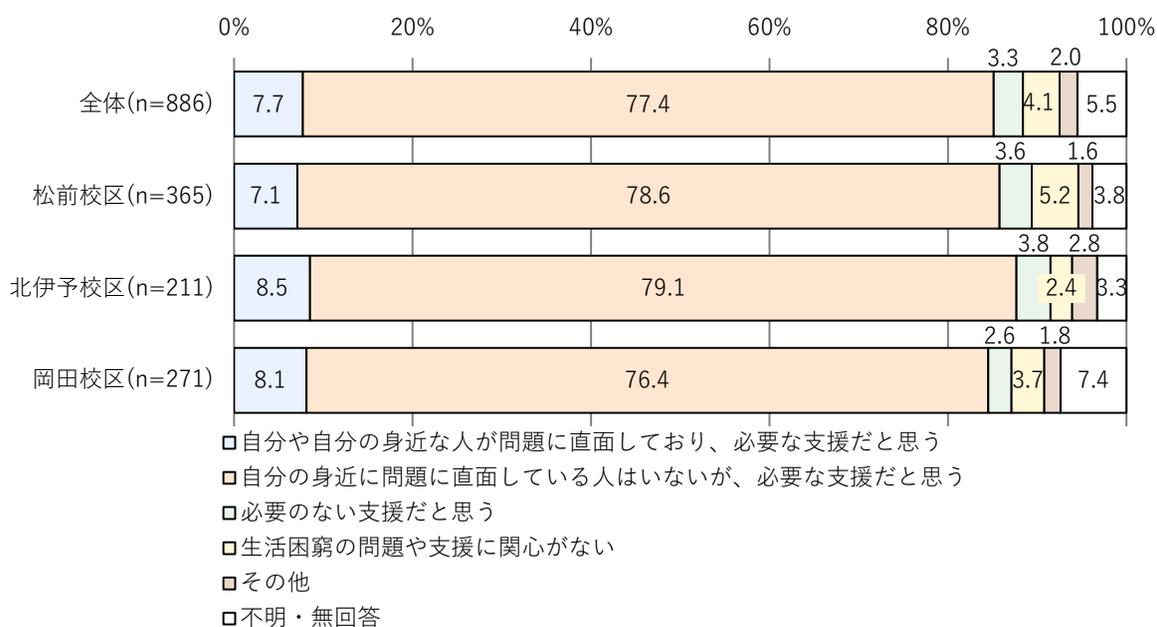
校区別	%	福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと	地域活動等を通して多世代が交流すること	住民が地域の福祉についての課題を話し合える場をつくること	介護を必要とする人やその家族等の話を聞いたり、交流したりすること	介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること	虐待など、近年クローズアップされている福祉問題について学ぶこと
		全体(n=886)	49.2	33.6	31.8	27.2	19.5
松前校区(n=365)	49.9	33.2	33.7	25.5	22.2	11.5	
北伊予校区(n=211)	55.0	36.0	27.5	29.4	17.1	13.7	
岡田校区(n=271)	47.6	35.4	35.1	30.3	20.3	12.9	
校区別	%	母子保健や子育ての方法などについて学ぶこと	手話や点字、介護方法等の技術を習得すること	特に必要なことはない	その他	不明・無回答	
全体(n=886)	8.1	7.9	4.6	2.1	5.3		
松前校区(n=365)	9.9	9.9	5.8	1.9	3.0		
北伊予校区(n=211)	7.6	7.1	2.8	0.5	4.3		
岡田校区(n=271)	7.0	7.0	4.4	2.2	4.1		

《生活困窮者自立支援制度》

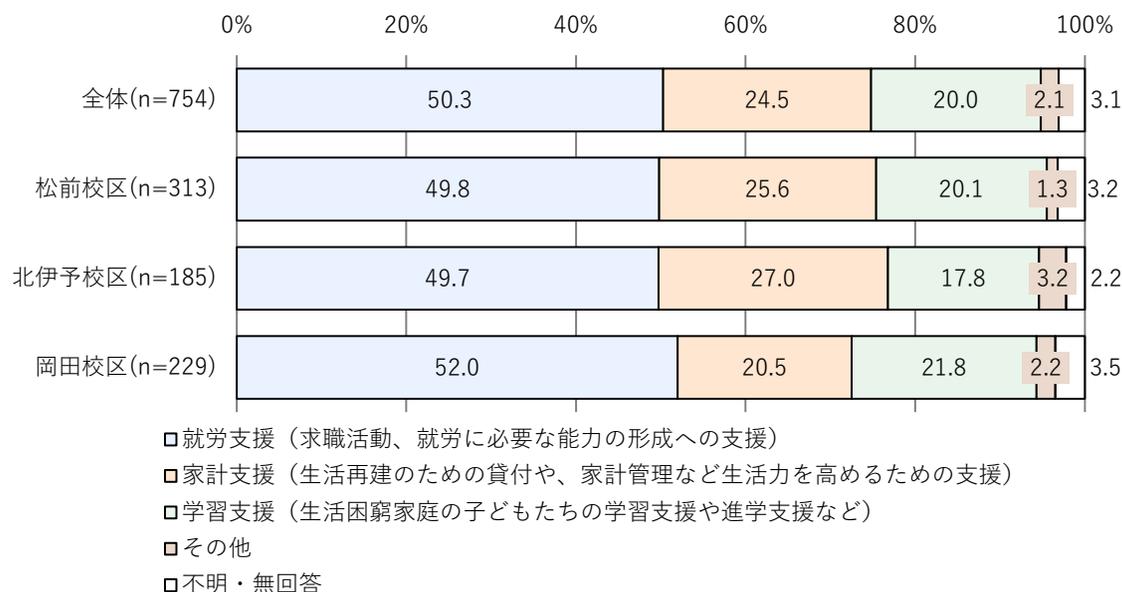
生活困窮の問題や支援についての考えをたずねると、全体の8割近くの人が「自分の身近に問題に直面している人はいないが、必要な支援だと思う」と回答しました。

また、具体的にどのような支援が最も必要だと思うかについて見ると、全体では「就労支援」が50.3%と最も高く、次いで「家計支援」が24.5%となっています。

【生活困窮の問題や支援についての考え】(単数回答)



【生活困窮の問題に最も必要だと思う支援】(単数回答)

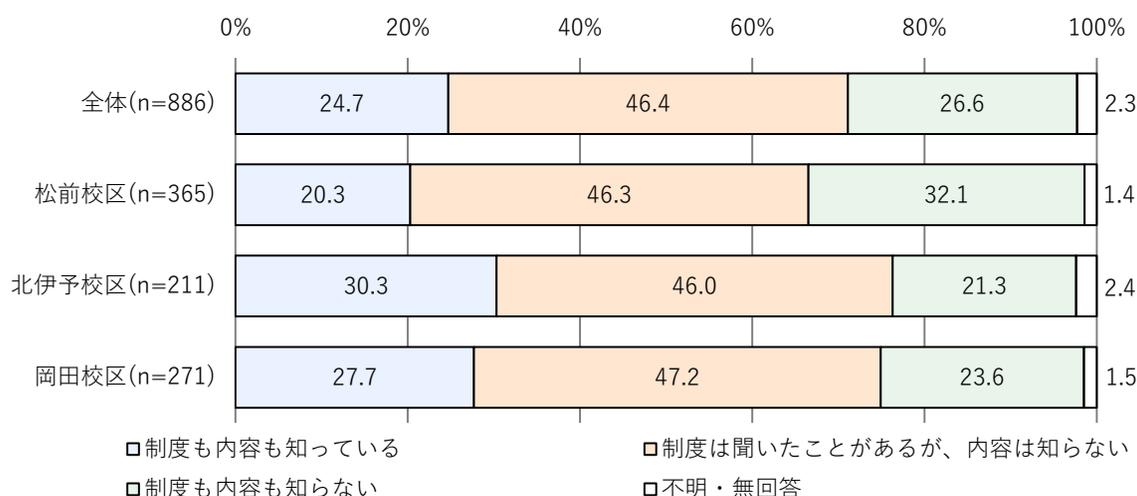


《成年後見制度》

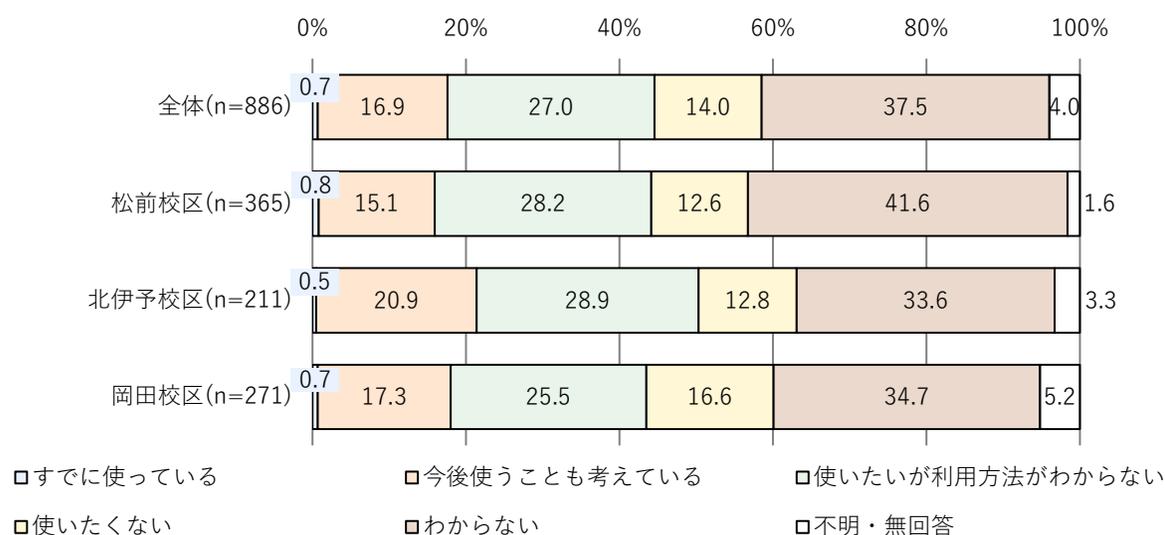
成年後見制度に関してどのくらい知っているかについてたずねると、全体では、「制度は聞いたことがあるが、内容は知らない」が46.4%と最も高く、次いで「制度も内容も知らない」が26.6%、「制度も内容も知っている」が24.7%となっています。校區別に見ると、松前校区では認知度が低く、北伊予校区では高くなっています。

今後の利用意向について、全体では「わからない」が37.5%と最も高く、次いで「使いたいが利用方法がわからない」が27%となっています。「使いたくない」「わからない」と回答した人にその理由をたずねると、「制度をよく知らないから」といった理由が最多でした。

【成年後見制度についてどのくらい知っていますか】(単数回答)



【今後の成年後見制度の利用意向】(単数回答)

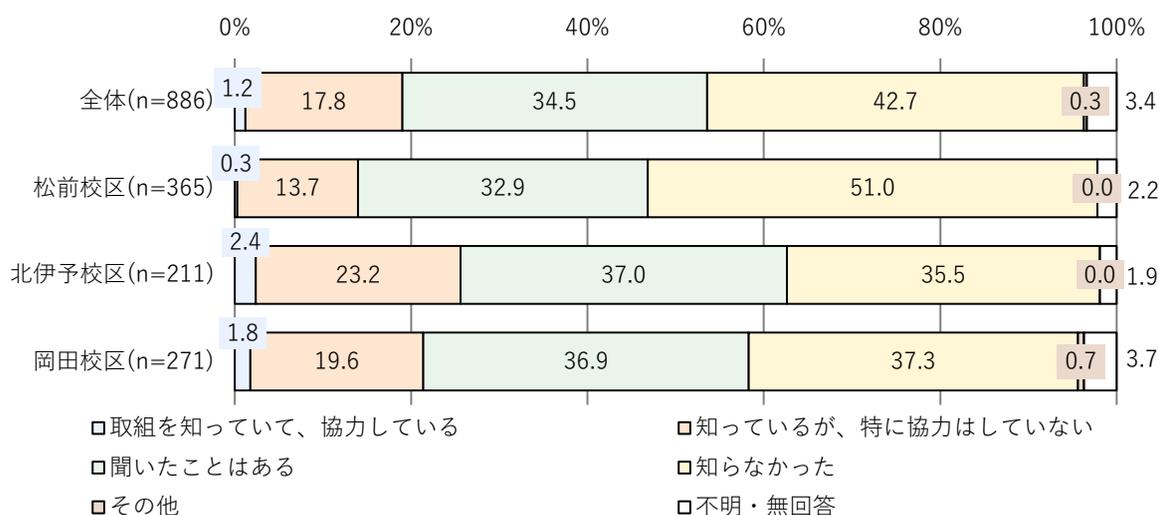


《再犯防止の取組》

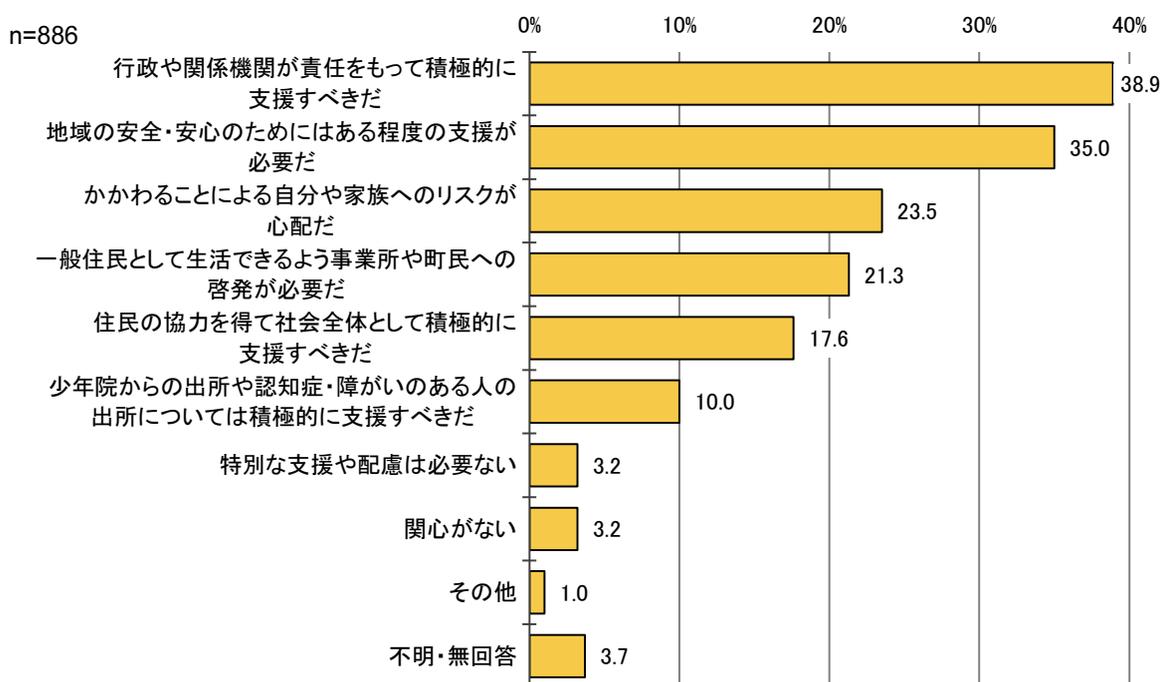
再犯防止の取組の認知度をたずねると、全体では「知らなかった」が42.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が34.5%となっています。校区別に見ると、成年後見制度と同じく、松前校区では認知度が低く、北伊予校区では高くなっています。

刑務所や少年院を出た人の社会復帰支援についての考えをたずねると、「行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ」が38.9%と最も高く、次いで「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」が35%となっています。

【再犯防止の取組の認知度】(単数回答)



【社会復帰支援についての考え】(複数回答)



(2) 団体アンケート・ヒアリング

☀️ 調査概要

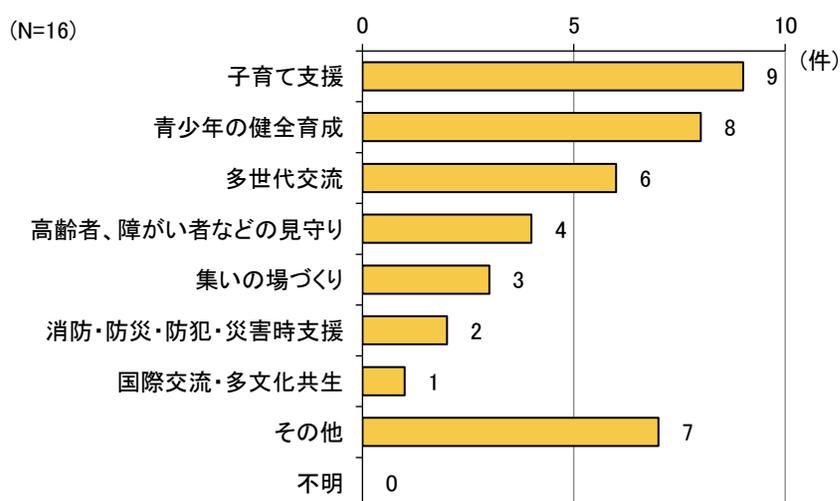
調査対象者	松前町で活動する福祉関係団体(16団体に配布)
調査期間	令和6年10月11日～10月31日
調査方法	郵送やメールによる配布・回収
回収件数	16件(回収率100%)
対面ヒアリング	令和6年11月15日・18日・25日(11団体に実施)

☀️ 主な調査結果

《地域団体の活動分野》

団体の活動分野について見ると、「子育て支援」が9件と最も多く、次いで「青少年の健全育成」が8件、「その他」が7件となっています。「その他」の内訳としては、更生保護、生活支援(ごみ出し)、障がい者支援などとなっています。

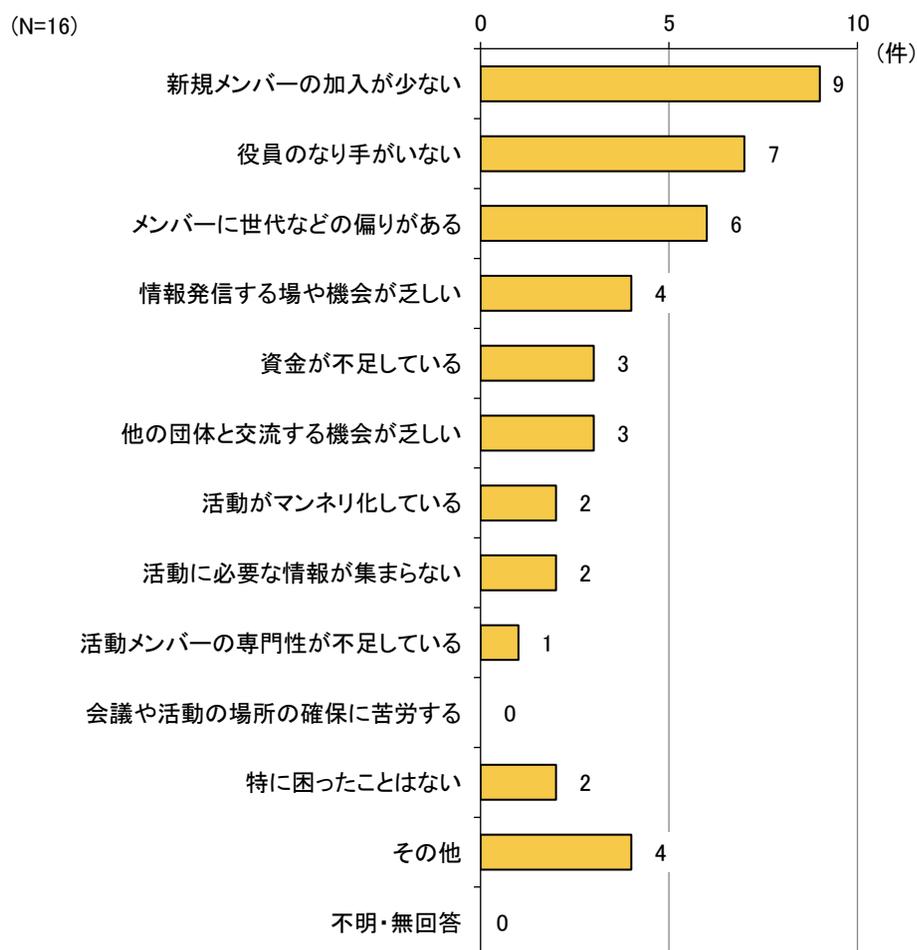
【貴団体の活動分野を教えてください】(複数回答)



《地域団体活動の課題》

団体の活動上の課題について見ると、「新規メンバーの加入が少ない」が9件と最も多く、次いで「役員のなり手がいない」が7件、「メンバーに世代などの偏りがある」が6件となっています。人材不足に関する課題が多くなっています。

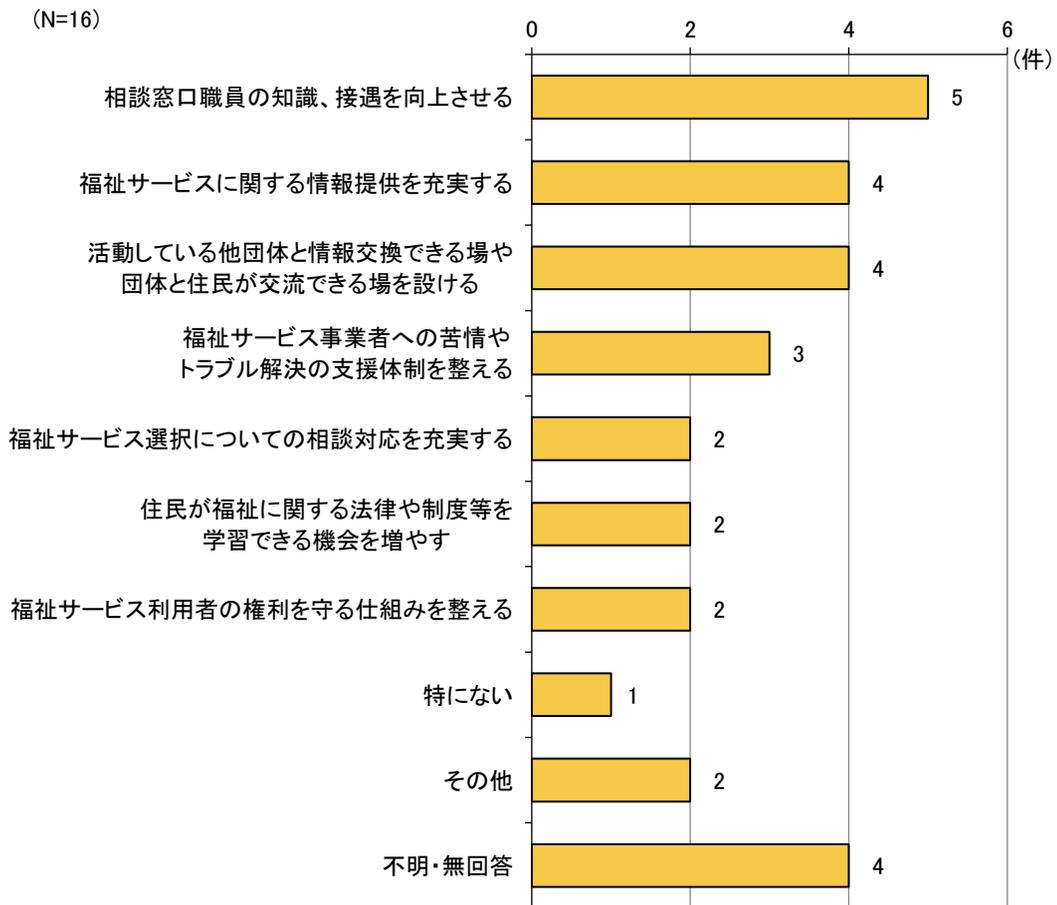
【貴団体の活動上の課題は何ですか】(複数回答)



《松前町で取り組むべきこと》

今後、町ではどのようなことに取り組む必要があると思うかについて見ると、「相談窓口職員の知識、接遇を向上させる」が5件と最も多く、次いで「福祉サービスに関する情報提供を充実する」「活動している他団体と情報交換できる場や団体と住民が交流できる場を設ける」が4件となっています。

【今後、町ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか】(複数回答)



《ヒアリングの主な意見》

担い手不足

保護司になる条件が厳しく(新規委嘱は原則66歳以下、定年75歳)、新規メンバーを確保できない。現役世代は仕事があるため研修を受けるのも難しい。国に年齢制限を撤廃してほしい。また、民生委員のように行政の推薦制にしてほしい。

メンバーの高齢化が進行しており、後継者がいない。団体のリーダーを引退したくても、後継者がおらず延長になっている。若い世代の加入がない。

民生委員のなり手がいない。民生委員は3年で更新があり、更新時に75歳までの人が務める。しかし、なり手がいないため、松前町に限らず年齢上限を超える傾向にある。

昼間に活動するため、勤め人は参加できない。

担い手の発掘・育成に苦戦している。ボランティア団体に新しい人が入らない。最近では、元気な高齢者は70歳から75歳まで働いている。定年を迎えてボランティアに参加できる、時間と体力の揃った層がいない。

地域の関係性、つながり

いろんな団体と交流し、情報交換を行える機会が欲しい。

現状、町社協は、高齢者福祉の分野には強いが、子どもの福祉分野には弱い。

松前町は、町外からの人口流入が多い。地域とのつながりづくりが課題。

学校・保護者が子どもの個人情報の取扱いに神経質になり、活動しにくい。「民生委員には守秘義務があり、個人情報の提供を受けることは問題ない」という認識が浸透してほしい。

子どもに顔を認識されていないと、話しかけるだけで警戒される。

ボランティア全般について、高齢者と子どもとの中間層との交流がないと、隔たり(縁遠さ)が埋まらないのではないかと。

情報発信

地域住民に活動を知られていない。PR方法を模索中。

秘匿性が高い活動は、団体の情報発信が難しい。

行政に望む支援

ボランティア団体と役場間で、連携ができていない。

役場の支援体制が整っておらず、一時的な活動の予定だった生活支援(ごみ出し)が長期化。

役場職員が異動するたび、専門知識の積み重ねがなくなって困る(特に防災関係)。

行政の補助はありがたいが、手続きが煩雑で、事務作業量が増える。

福祉事業所の利用者が地域のイベントに参加するに当たり、地域住民向けの説明会があると理解を得られて助かる。

その他の課題

ボランティアであるにもかかわらずクレームが出るなど、サービス業者のような扱いを受ける。

アウトリーチが難しい。

資金が不足しており、町からの補助では足りず、メンバーが自腹を切っている部分もある。



(3)住民座談会

☀ 調査概要

参加者	区長、民生委員・児童委員など(各回約30名)
開催日時 (場所)	① 令和6年12月2日(月)19:00~20:30 松前校区(西公民館) ② 令和6年12月3日(火)19:00~20:30 北伊予校区(東公民館) ③ 令和6年12月4日(水)19:00~20:30 岡田校区(北公民館)
内容	6人前後のグループに分かれて話し合いを行い、最後に出た意見を個別でカードに記入
	話し合いテーマ ・誰もが幸せに暮らすために松前町における課題とは ・自分たちにできる取組

☀ 主な調査結果

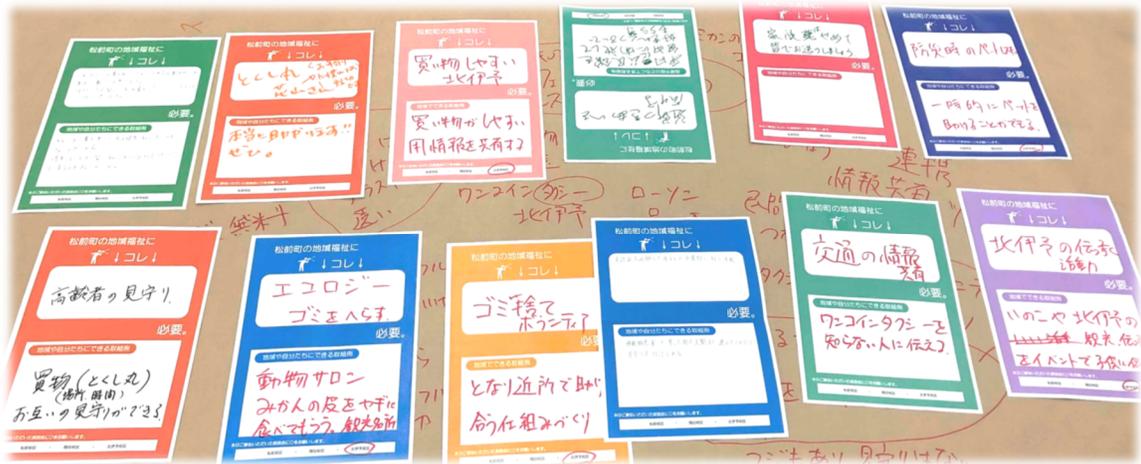
① 松前校区

- ・サロン活動の活性化や松前の魅力発信で若い世代を呼び込み、地域の担い手確保
- ・地域行事(祭り)は自治体主導で行い住民の負担軽減、加えてSNSによる情報発信で参加促進
- ・登下校時の声かけや挨拶を通じて、子どもの見守りと顔の見える関係づくりを両立
- ・サロンや空き家活用による居場所づくりで、子ども・高齢者・多世代交流の場を確保
- ・移動や買い物支援として、バス停増設・移動スーパー・乗り合わせによる外出支援を提案
- ・無償・有償ボランティアの仕組みづくりで、誰もが支え合いに参加できる体制の整備
- ・見守りや情報共有で、独居高齢者など支援が必要な人を把握し、災害時にも備える



② 北伊予校区

- ・地域リーダーや担い手の確保には「気軽さ・楽しさ・地道な育成」が必要
- ・地域行事の再開と子どもの参加促進(学校との連携、日常的な挨拶)
- ・高齢者サロンや井戸端会議など、自然な交流の場を増やす工夫
- ・免許返納後の移動手段として、デマンド型交通やバス増便を希望
- ・ごみ出し・買い物支援には近所での助け合いが必要。移動スーパーの導入
- ・防災では、近所の関係性と役割分担(ペット担当など)の明確化が重要
- ・ファミサポなど子育て支援の制度の周知強化が必要



③ 岡田校区

- ・親世代をイベントから地域リーダーに育て、役割分担と任期短縮で負担軽減
- ・SNS活用や若い世代の提案で、新しい行事や参加促進を図る
- ・健康マージャンや囲碁など男性向けサロンの開催
- ・日頃の声掛け・雑談を通じて、防災や支援のきっかけに
- ・ひまわりバス増便や乗合タクシーなどの移動手段の多様化
- ・ごみ出しは「お・か・だ」(【お】となりの【か】わりにごみを【だ】してあげよう)で助け合い
- ・スタンプで景品と交換できるボランティアポイント制など、新しい仕組みの導入

